

2025年度 大学後援会総会・大学開放プログラム開催



六月七日、土樋と五橋の両キャンパスで東北学院大学後援会総会・大学開放プログラムが開催された。

メイン会場となった五橋キャンパスでは、後援会総会に先立ち、押川記念ホールで特別礼拝が行われた。原田浩司宗教部長が、本学のスクールモットーである「LIFE LIGHT LOVE」をテーマに説教。続くパイプオルガンコンサートでは、大学オルガニストの今井奈緒子教授がバッハなどの楽曲を演奏し、聖歌隊の美しい歌声が会場に響き渡った。

同ホールで行われた後援会総会では、大西晴樹学長が「体育会や文化団体の課外活動、さらには友人との付き合いやアルバイトなど、学生たちの教育は必ずしも教室だけで行われるものではなく、そうした多様な学生生活を私たちはしっかり支えていく」と保護者に向けてあいさつした。その後、氏家照彦後援会会長の進行で昨年度の庶務・収支決算報告、今年度の事業計画および予算案などが審議され、いずれも提案通り承認された。

午後からは、作家やテレビなどのメディアでキャスターとして活躍する脳科学者の茂木健一郎氏を講師に招き、「脳を磨く生活術」と題した教養セミナーが開催された。茂木氏は「リベラルとは何か」「人工知能は

提案するだけ」「個性を活かすことが自由への道。だから、自分の個性を見直してほしい」など、印象的な言葉の数々で参加者を脳科学の世界へと引き込んだ。この他、学生の就職状況を詳しく説明する「学生の就職を考えるセミナー」をはじめ、学生部や就職キャリア支援部、国際交流部による個別相談、さらに学科別の個別面談コーナーも設けられた。参加した保護者からは、丁寧な説明と個別の相談機会に満足したという声が多く聞かれた。

情報科学科の学生に 学長表彰

六月九日、情報科学科の岩上鈴実さん(四年)と栗原楓夏さん(四年)に学長表彰が行われ、大西晴樹学長から表彰状と記念品が贈られた。二人は昨年十一月、当時岩手県立大学総合政策学部在籍していた菅原千寛さんとチームを組み出場した「岩手もりおか学生デジタルアイデアコンテスト二〇二四」で、最優秀賞を受賞した。このコンテストは、IT人材の育成・発掘や、岩手県内での実用化が見込めるデジタル技術の活用案創出を目的に県内の産学官が連携し開催した。参加した四十五チームから一次選考を勝ち抜いた十チームが最終審査会に出場し、アイデアの革新性、独創性、市場性、岩手県における実現可能性などを基準に選考が行われた。三人によるチーム「さつこらツアーズ」は、岩手県の

硬式野球部 小野涼介投手 ノーヒットノーラン 無安打無得点試合を達成

5月19日に行われた「仙台六大学野球春季リーグ」第6節第2日の試合(対東北工業大学)で、硬式野球部の小野涼介投手(2年)がノーヒットノーランを達成しました。



仙台六大学野球は、宮城県内に拠点を置く6つの大学の硬式野球部が対戦するリーグ戦で、今年は4月12日に開幕し、5月25日まで開催されました。

小野投手はアンダースロー投法の投手で、昨年の秋季リーグ戦でも優秀新人賞を受賞しています。そして、今回の試合では、その独特の軌道と変化球で相手打線を翻弄。フォアボールのみでヒットを一本も許さず、最後の打者をファーストゴロに打ち取り、リーグ戦史上16人目、20度目となる快挙を達成しました。本学では、



ノーヒットノーランを達成した小野投手

2018年に小野寺祐人投手(当時4年)が達成して以来、7年ぶりです。

今回の記録に対し小野投手は「試合が終わった時は、ノーヒットノーランだったことは知っていましたがあまり実感がわきませんでした。9回まで投げたという気持ちが一番強かったです。自分がノーヒットノーランを達成できるとは思っていませんでした。うれしさよりも驚きの方が強かったです」と謙虚に喜びを語りました。

2023年の星孝典監督就任以降、年々力をつけてきた硬式野球部。今後の活躍が期待されます。

矢巾町、郡山市と連携協定締結

経済学の知見生かし 地域課題の解決図る

東北学院大学は、大学院経済学研究科経済データサイエンス専攻の実地研究の場として岩手県矢巾町、福島県郡山市と連携協定を締結した。各自自治体の経済や財政などをより精緻に分析し、地域の課題解決などに向け共同研究を進める。五月二十六日に矢巾町役場で行われた締結式では、大西晴樹学長と高橋昌造町長が協定書を交わした。

同町は、公共インフラなどさまざまな施策に「フューチャーデザイン」と呼ばれる将来世代の視点を取り入れる先進的な取り組みで知られる。高橋町長は「矢巾町は農業など一次産業を中心に地域課題が山積している。協定をきっかけに町と大学が一体となつて取り組んでいきたい」と抱負を述べた。共同研究では、経済学研究科が同町の人口

の将来推計や公営企業の経営分析を行う。大西学長は「今回の取り組みが東北に輝きをもたらす活動として新しいモデルになればと期待した。六月十日には郡山市役所で締結式が行われ、大西学長と椎根健雄市長が協定書にサインした。同市は東北で二番目の経済規模を誇り、今回の協定はデータ分析を通じた地域経済の活性化や根拠に基づいた政策立案の推進がねらい。椎根市長はあいさつで「データ分析による地域の活性化に向けて、政策立案から施策、効果まで根拠をベースにどう結びつけていくか一緒に考えていきたい」と話した。また大西学長は「人口減少や少子高齢化をはじめとした地域課題に対して、各種研究を背景とした政策モデルを作っていく」と語った。経済データサイエンス

専攻は、本学の大学院教育プログラム「東北の地域経済発展を担うデータサイエンス人材育成事業」の一環として今年度開設。「地域に根差す大学」として経済データサイエンス人材育成と地域分析を行う取り組みを行っている。

矢巾町と東北学院大学大学院経済学研究科とのデータ分析に関する連携協定締結式の様子が写真に写っている。



散策を支援するアプリ「おでんせ岩手く願いをかなえる散策プランナー」を提案。このアプリは画面に表示された地図を指でなぞると観光スポット、所要時間、天候などを考慮して散策プランを提示し、散策中にはトイレやAEDの設置場所避難所などの情報が表示される。岩上さんは以前から観光客向けのアプリ開発に興味を持っていたといい、同じ思いを持った栗原さん、菅原さんとチームを結成。集中して取り組み、約四か月でアイデア出しから試作品の製作まで終わらせた。

今回の学長表彰を受け岩上さんと栗原さんは喜びの言葉を発表するとともに「チームのメンバー同士支え合いながら最後まで挑戦することができた。協力いただいた皆様感謝している」と振り返った。今後二人は分野を変えて卒業研究に取り組む予定である。

学校法人東北学院では六月十二日、法人事務局長に伊藤寿隆氏、理事長特別補佐(管理運営全般担当)に齋藤信二氏が任命された。

東北学院役職者人事が決定

新任役職者の略歴は次のとおり。

■理事長特別補佐(管理運営全般担当) 齋藤 信二氏 (略歴) 一九七九年東北学院大学経済学部経済学科卒業。同年東北学院勤務。二〇一三年総務部次長。二〇一五年総務部長兼総務部次長。二〇一六年庶務部長。二〇二〇年法人事務局長。

■法人事務局長 伊藤 寿隆氏 (略歴) 一九八三年東北学院大学経済学部経済学科卒業。同年東北学院勤務。二〇〇八年桜美林大学国際学研究所修士課程修了。二〇一三年人事部長。二〇一六年人事部長。